

クローズアップ
CLOSE UP

文化財の火災に備える

国登録有形文化財の旧本間酒造で、1月27日に火災防衛演習を実施。文化財防火デーに合わせて行った今回の訓練は日本語学校の生徒も参加し、外国人が火災に巻き込まれた場合を想定して翻訳アプリの活用方法も確認。実践的で臨場感のある訓練となりました。



赤城山の冬恒例行事

白銀の世界を楽しむ赤城山雪まつりを2月2日に開催しました。白樺牧場では前橋ホワイトフェスティバルを実施。犬ぞりやディスクラッグなど、犬の勇姿に歓声が上がりました。第1スキー場ではスキー教室などが行われ、子どもたちが雪遊びを堪能しました。



自由な発想の作品並ぶ

2月2日に前橋文学館で、「わたしが描く『朔太郎詩』の絵画展」授賞式を開催。子どもたちが描いた絵画が飾られ、一人一人に賞状が贈られました。また、授賞式後には「野村たかあき展」の座談会を開催。野村さんから制作秘話や日頃の活動について話を聞きました。

いきいき
まえばし人

全盲の中長距離ランナー
唐澤 剣也さん、24歳
表町一丁目

応援してくれる人たちに喜んでほしい

2020年東京パラリンピックへの出場が期待される唐澤さんは10歳のときに病気で全盲となった。小さい頃から走ることが得意で、盲学校では陸上競技に力を入れた。唐澤さんの転機は平成28年に開催されたリオパラリンピック。「自分と同じ視覚障害者が世界で活躍していると知って、自分もいつかそうなりたいたいと思いました」

唐澤さんの陸上人生には多くの支援者が関わっている。「練習場所の確保やガイドランナー探し、活動資金の呼び掛けなど、周囲の人が支えてくれて走ることができています。昨年10月に、アジアパラ競技大会で金メダルと銅メダルを獲得しました。それを皆さんが喜んでくれたことが何よりうれしかったです」



ガイドランナーと走る唐澤さん(右)

創造の森から
アーツ前橋
館長日記 Vol.6



岡アーツ前橋
☎027-230-1144

アーツ前橋の住友文彦館長が日々のあれこれをつづるこのコーナー。第6回は地域創造大賞受賞の理由と開催中の企画展についてです。

ご報告があります。うれしいことに地域創造大賞(総務大臣賞)にアーツ前橋が選ばれました。名前のとおり地域文化に貢献している文化施設を選ぶ賞で、開館5年目で早々に受賞した理由は、期待されていること



企画展で飾られている木版画
レオリーニョ・オルテガ・ドロリコン
《農園のなかで》2014年 福岡アジア美術館蔵

が半分、これまで継承されてきた文化を受け取っていることが半分。審査委員長からは、同時代の社会と関わるアートプロジェクトと、地域ゆかりの作家を掘り起こす作品の調査と収蔵を評価点に挙げていただきました。前橋の文化を担ってくださった場所に換乎堂という書店があります。かつては出版事業のみならず、美術展、演奏会、講演会も活発に行っていました。私は初めて前橋に来たとき、大きな書店が一等地で21時まで営業していることに街の文化度を感じました。

インターネットの登場以前、本や雑誌などを通じて伝わる文化は大きな求心力を持っていました。地方からでも個人が情報発信できる手段として利用された木版画に注目した展覧会を開催しています。今というSNSです。アジアで近代化や民主化を求める活動を支えた木版画が約400点も集まりました。各地の市民が熱い思いを込めて作った作品が一堂に会して見られるのも、多くの個人や団体、美術館が大事に継承してきたからです。デジタル時代に改めて紙とインクに込められた表現を見直す機会になればと思います。